

# 令和5年度 庄原市研究主任研修会

令和5年6月7日（水） 庄原市総合体育館

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

## 【講話・交流】「研究主任の役割について」

庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子



- 研究主任は、①研究推進計画の立案・実施・まとめ、②研究推進に係る連絡調整・体制づくりの大きく2つの役割がある。
- 校内授業研修会では、実際の児童生徒の姿をもとに、指導や手立てが適切であったか、授業仮説が実態に合っていたかなど、十分に協議する必要がある。



### 【交流での意見等】

- ◆研究協議の最後にフィードバックタイムを設け、どのように今後の授業実践に生かすかを考えてもらうとともに、全校での取組を明確にすることが大切である。

## 【講話・協議】「個別最適な学びの推進に向けて」

庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子



- 「個別最適な学び」とは、子供自らの学びが最適となるよう、自己の特性や学習進度等に応じ、学習の課題や内容、教材や方法等を選んだり決めたりしながら学ぶことである。
- 各校の目指す児童生徒の姿を明らかにし、その姿へ向けて、どのような取組が有効であるのかを、教職員全員で協議・共有することが大切である。



### 【交流での意見等】

- ◆取組を聞いて、「個別最適な学び」の実践をすることで児童生徒の自己調整力を高めることができると感じた。
- ◆総合的な学習の時間に調べ方を選択させる、個人思考の場面で学び方を選択させるなど、自己決定する場面を増やしていきたい。

### 【参加者の感想等】

- ◆他校の研究主任と取組を交流する中で、さまざまにアドバイスをしてもらったり相談にのってもらったりすることができ、とても勉強になった。事前・事後・参観の取組を本校でも取り入れてみたいと感じた。
- ◆研究授業をした後、今後の授業につなげていけるように、成果や課題を共有していきたい。
- ◆東城小学校、小奴可小学校の実践を聞き、準備の大変さは感じたが、いろいろなコーナーを設けて体験的に学べる事で、日常に生かせる学びにつながることや、進度の速い子への対応、興味・関心の引き出しにつながると感じた。
- ◆個別最適な学びを推進していくために、まずは、児童実態の把握をし、目指す子供の姿に向けて、どのような取組が有効か考えていけるといいと思った。